

科目名	政治学概論Ⅰ(国際政治を含む)		担当教員	小林 正嗣	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2SLP204
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	日々の政治的出来事がなぜそのようになるのかを制度として説明できる。 テーマは、現代政治へと至る歴史、現代政治を作り上げている制度、現代政治の背景となる理論の三点である。				
授業の概要	本講義は、現代政治の仕組みを総合的に理解、考察することを目的とする。そのための前提として、まず、現代政治へと至る歴史を概観する。その後、前半では、現代政治の仕組みがいかに成り立っているのかを、制度の側面から検討する。後半では、現代政治の背景にいかなる思想が存在しているのかを、理論の側面から理解する。				

授業計画	
第1回	ガイダンス (政治とは何か)
第2回	政治史 1 近代日本の政治
第3回	政治史 2 現代日本の政治
第4回	政治制度 1 議会と立法過程
第5回	政治制度 2 内閣と総理大臣
第6回	政治制度 3 政党と利益集団
第7回	政治制度 4 選挙制度と政治参加
第8回	政治制度 5 地方自治
第9回	政治理論 1 強制と自発性をめぐる権力論
第10回	政治理論 2 リベラリズムの展開
第11回	政治理論 3 現代の自由論
第12回	政治理論 4 正義とは何か
第13回	政治理論 5 リバタリアニズムとコミュニタリアニズム
第14回	政治理論 6 平等論の展望と課題
第15回	総括 全講義をまとめ総括を行う

事前学修	2時間	政治学は、まさに日々行われている現実政治と密接に関係している。 したがって毎日新聞を読み、政治とは何であるのかを考えておくこと
事後学修	2時間	毎回レジュメを配布する。読み直すことで復習ができるよう詳細に作ってあるので、振り返って理解を深めておくこと
フィードバックの方法	毎回講義時にリアクションペーパーを提出してもらう。 それに対する回答を次講義の冒頭で行う	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	100%	政治学の基礎知識の理解度を問う
定期試験	0%	
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
毎回レジュメを配布する	なし	なし	なし	なし
参考資料	特になし			

科目名	政治学概論II		担当教員	小林 正嗣	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2SLP405
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	人類の歴史において、様々な思想がどのような認識に基づきいかなる「社会」を想像／創造してきたかを、学生たちが理解する。さらに、学生たちが、本講義を通じて「現代社会の認識」および「理想的社会の構想」のための知的源泉を作り上げる。				
授業の概要	人類は、現在に至るまで、様々な「現実的社会」を経験し、様々な「理想的社会」を構想してきた。それらの「社会」の多様性は、「人間」および「物事」に対する我々の認識の多様性に由来している。したがって、本講義では、人類の歴史において、様々な思想がどのような認識に基づきいかなる「社会」を想像／創造してきたかを理解することを目的とする。ここでは、最初に思想の源流となる古代ギリシャの思想を確認し、それ以降は、時代に沿って、近代の思想までを検討していく。				

授業計画	
第1回	ガイダンス（政治思想とは何か）
第2回	古代ギリシャの思想
第3回	中世封建社会と思想1
第4回	中世封建社会と思想2
第5回	ルネサンス期の思想
第6回	宗教改革
第7回	近代合理主義の思想
第8回	道徳哲学の思想
第9回	中間考察（政治哲学とは何か）
第10回	絶対主義と啓蒙思想1
第11回	絶対主義と啓蒙思想2
第12回	啓蒙主義批判の思想
第13回	ドイツ啓蒙主義の思想
第14回	功利主義の思想
第15回	全体のまとめ

事前学修	2時間	政治思想は次の時代へのつながりが重要になる。前回のレジュメを確認し、それがどのように引き継がれていくのかを推測しておくこと
事後学修	2時間	授業時には詳細なレジュメを配布するので、授業後に再読し、思想家の特徴を確認すること
フィードバックの方法	毎回の授業時にリアクションペーパーを提出してもらおう。次の回の冒頭にそれに対する回答をする	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	20%	課題図書理解度と考察力を問う
上記以外の試験・平常点評価	80%	各思想家の特徴の理解度を問う
定期試験	0%	
補足事項	思想や哲学は、みなさんにとってはなじみの薄いものかもしれませんが。しかしながら、ある哲学者は、「思索とは詩作である」と述べています。難しい哲学書を紐解かなくても、哲学は詩という形で表現	

されるのです。講義では、桜井和寿氏の「詩」を授業内容に重ねながら、哲学的に検討します。「ミスチルで哲学する」という不思議な体験ができると思います。

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
毎回レジュメを配布する	なし	なし	なし	なし

参考資料

小林正嗣『読むラジオ講座 ミスチルで哲学しよう』（萌書房・定価1,980円）
第九回講義にて、上記図書を用いて政治哲学とは何かについての中間考察をします。
それまでに各自入手し、読了しておいてください。
詳細は第一回講義のガイダンスにてアナウンスします